

(報道発表資料)

京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホタルのすみとくん



50年以上先の将来を見据えて、
水道・下水道管路の事業量・
事業費の平準化を検討したよ！

令和7年2月21日
京都市上下水道局
担当：経営戦略室
電話：075-672-3114

京都市上下水道局 施設マネジメントの検討結果(中間報告)

上下水道局では、今後、多くの水道・下水道施設が更新時期を迎えることから、「施設マネジメント」の一環として、長期的な視点でそれらの施設の改築更新に係る事業量・事業費の平準化を図るとともに、将来必要となる事業費の見通しについて検討を進めてきました。この度、その中間報告を行います。

1 検討の背景・目的

京都市では、水道水の供給や汚水の処理等のために、多くの施設を管理しており、それぞれの施設の特徴に合わせた維持管理により、機能を維持しながら長期に使用することで、ライフサイクルコスト（施設の建設から撤去までの費用）の縮減を図る「施設マネジメント」の取組を進めています。

特に、水道・下水道の管路は、市内にそれぞれ約4,200キロメートル布設され、事業資産の約7割を占めています。今後、事業拡張期（昭和40年代から平成初期）に整備した大量の管路が更新時期を迎え、その更新には莫大な費用と時間を要することから、事業を持続可能なものとするためには、長期を見据えて計画的に更新を進めていく必要があります。

このような状況を踏まえ、令和4年度に「施設マネジメントプロジェクトチーム」を立ち上げ、「施設マネジメント」の一環として、長期的な視点で、今後の管路更新に係る事業量の平準化を図るとともに、将来必要となる事業費の見通しについて検証を進めてきました。

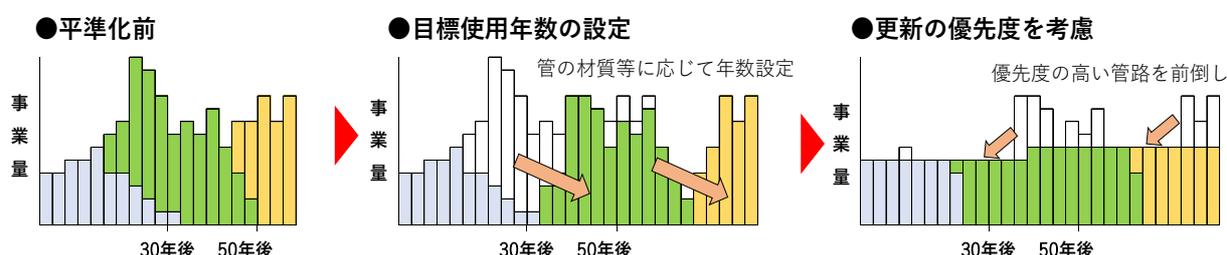
2 検討の内容

水道管路（17万件）・下水道管路（19万件）のデータに基づき、技術的・専門的見地から、実態に即した「目標使用年数」を設定し、管の重要度等に応じた「更新優先度」を加味して、長期的に必要な管路更新の事業量を把握し、安全性を確保しながら、その平準化（年度ごとに異なる事業量を均すこと）を図りました。また、平準化した事業量に基づき、将来必要となる事業費の見通しを作成しました。今後、これを踏まえて、長期的な財政収支見通しを作成します。

- (1) 管路更新の事業量の把握・平準化（100年間）
- (2) 管路更新の事業費の見通しの作成（50年間）
- (3) (1)、(2)を踏まえた長期的な財政収支見通しの作成

※ 中間報告では、(1)・(2)の検討結果について公表（(3)は最終報告で公表）。

<事業量の平準化の流れ（イメージ図）>



京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホテルのひかりちゃん



詳細はこちら
から見てね！



3 検討結果の概要

以下、中間報告まとめの概要です。

※詳細は右の二次元コードから御覧ください。

(1) 水道管路の更新について

- ・ 水道管路のうち、配水管（約2,800km）を対象とした平準化の結果、今後100年間に更新が必要な管路は、合計2,700kmとなります。なお、年度間の事業量の差が小さい補助配水管（約1,400km）は、検討の対象から除いています。
- ・ 平準化後の年間の事業量は、令和10年度以降、現在の中期経営プラン（令和5～9年度）から増加し、その後20年ごとに段階的に減少します。
- ・ 平準化後の事業量を元に算出した事業費は、令和10年度以降増加し、その後は事業量の減少に伴い減少していく見通しです。

【100年間の事業量】

中期経営プラン (R05-09)	R10-29	R30-49	R50-69	R70-89	R90-109	100年間計
年31km	年34km	年32km	年26km	年23km	年20km	2,700km

【50年間の事業費の見通し】

中期経営プラン (R05-09)	R10-19	R20-29	R30-39	R40-49	R50-59	50年間計
年141億円	年168億円	年168億円	年155億円	年155億円	年152億円	7,980億円

※各期間の事業費には、補助配水管に関する事業費を含む。

(2) 下水道管路の更新について

- ・ 下水道管路（4,200km）を対象とした平準化の結果、今後 100 年間に更新が必要な下水道管路は、合計 2,500km となります。なお、下水道管路は水道管と異なり、管内の調査・点検が可能であり、劣化状態に応じた対策を取ることで、長期間使用できることを前提としています。
- ・ 平準化後の年間の事業量は、令和 10 年度以降、現在の中期経営プラン（令和 5～9 年度）から 20 年ごとに段階的に増加します。
- ・ 平準化後の事業量を元に算出した事業費は、事業量の増加に伴い、令和 10 年度以降段階的に増加する見通しです。

【100 年間の事業量】

中期経営プラン (R05-09)	R10-29	R30-49	R50-69	R70-89	R90-109	100 年間計
年 10km	年 15km	年 20km	年 25km	年 30km	年 35km	2,500km

【50 年間の事業費の見通し】

中期経営プラン (R05-09)	R10-19	R20-29	R30-39	R40-49	R50-59	50 年間計
年 46 億円	年 78 億円	年 78 億円	年 100 億円	年 100 億円	年 134 億円	4,900 億円

4 今後の取組について

今回報告した水道・下水道管路の更新に係る事業費に加えて、浄水施設や汚水処理施設等の更新に係る事業費、水需要の予測を踏まえた料金収入の見込み、物価・金利の動向等を合わせて検討し、長期的な財政収支見通しを作成し、令和 7 年度に最終報告として取りまとめます。